倉垣遺跡（E区等）発掘調査概要

農村基盤整備事業「歌垣地区」に伴う調査・V

— 豊能郡能勢町倉垣所在 —

1999. 3

大阪府教育委員会

はしがき

倉垣遺跡の所在する豊能郡能勢町は大阪府の北端に位置し、町境の北側を京都府、南側を兵庫県とに接しています。摂津・丹波の山々に取り囲まれ、大阪府内でも数少ない自然が多く残されている高原の町です。しかし、豊かな自然に恵まれたこの地域も近年の圃場整備事業、ゴルフ場、宅地などの開発により、その景観は大きく変貌しようとしています。

大阪府教育委員会では「歌垣地区」で進められている圃場整備事業に先立ち、埋蔵文化財の発掘調査を平成４年度より実施してきました。今回報告する９・10年度の調査では、倉垣遺跡において圃場の切り土や用排水路工事という地下の遺構に影響を及ぼす部分の発掘を行ないました。その結果、当時の能勢地域を知る上で貴重な歴史資料を得ることができました。この成果は地域史の解明に重要なものであることと確信しております。

調査に際しては多くの方々のご協力をいただいたことに厚く感謝いたしますとともに、今後とも文化財行政に変わらぬご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成11年３月

大阪府教育委員会

文化財保護課長　鹿　野　一　美

例　　言

１、本書は大阪府教育委員会が大阪府環境農林水産部より依頼を受けて、文化財保護課が担当実施した府営農村基盤整備事業「歌垣地区」に伴う発掘調査の概要報告書である。

２、調査は文化財保護課技師辻本武を担当者として、Ｅ地区では平成９年11月から、Ｋ地区では平成10年11月から現地調査を実施し、それに伴う整理作業を並行して進め、平成11年３月に終了した。

３、調査にあたっては、地権者各位および地元土地改良区、大阪府北部農と緑の総合事務所池田分室、能勢町教育委員会をはじめ多くの諸機関、諸氏より懇切なご協力を賜わった。記して感謝する次第である。

４、本書の執筆・編集は辻本が行なった。

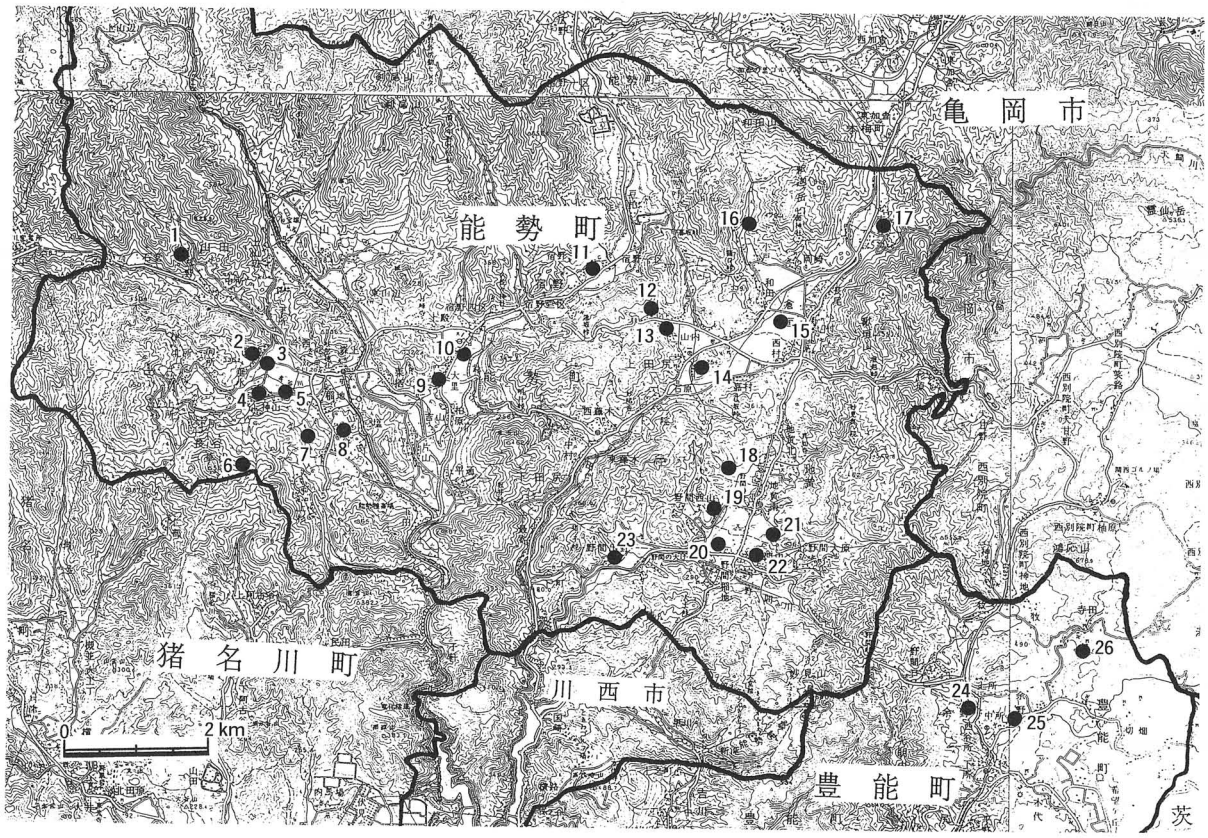
第１章　はじめに

能勢町は、海より直線距離で30㎞離れた山中にある町で、標高200～250ｍの小盆地が点在している。倉垣地区は当町の北東にあって、南北1.5㎞、東西１㎞の盆地である。今回調査した倉垣遺跡は、この盆地の中央にあって、96年度より今年度までの３ケ年にわたって調査が続けられてきた。なお96年度調査では「ハイ原遺跡」等という名称での調査であったが、これは「倉垣遺跡」の範囲に含まれる。これらの経過については『倉垣遺跡発掘調査概要』等の公刊されている報告書にすでに記述されている。

本書は、農村基盤整備事業「歌垣地区」にある倉垣遺跡Ｅ～Ｋ区、および同事業に先立ち調査されて未報告であった城ケ脇遺跡の遺物についても報告するものである。

なお本事業名の「歌垣地区」は、1956年の能勢町成立までは倉垣・吉野・山内の三地区を合わせた範囲が「歌垣村」という行政単位であったところから名付けられたものである。

倉垣遺跡の環境や調査に至る経過については、従前の当町内各遺跡の発掘調査概要報告書に述べられているものとほとんど変わりがないので、それらを参照することをお願いして、今回は旧能勢郡内（能勢町・豊能町）において、本書に関係する時代の遺跡の分布図のみを掲載する。



1．日野窯跡　2．尾道遺跡　3．屋組遺跡　4．上椿遺跡　5．城脇遺跡　6．三草山古墳群
7．源治郎山古墳群　8．法蓮坂遺跡　9．大里廃寺　10．大里遺跡　11．八ヶ岡遺跡　12．山内池尻遺跡
13．阪尻遺跡　14．円山古墳群Ｂ支群　15．倉垣遺跡　16．小戸古墳群Ｂ支群　17．吉野遺跡　18．坂ノ尻遺跡
19．大門遺跡　20．野間遺跡　21．九ノ坪遺跡　22．野間中古墳群Ｂ支群　23．岩崎社経塚跡　24．九木田遺跡
25．余野城跡中所地区　26．寺田遺跡

第１図　旧能勢郡の飛鳥・奈良・平安時代の遺跡

第２図　倉垣遺跡調査区位置図

第２章　Ｅ・Ｋ区の調査

Ｅ区

Ｅ区は、倉垣地区内の大字上村から同和田へ行く町道の途中の北に接して設定した調査区である。96年度に実施した試掘調査の際に、古墳時代の遺物の包含層が確認されたため、遺跡として認められたものである。

調査の結果、当調査区の南西隅に遺物包含層が見られて、土師器の細片が得られたのであるが、大半は遺構・遺物ともに稀少であった。

遺構としては段状遺構および溝が検出されている。中世の遺物を若干含むので、この時期のものと思われる。

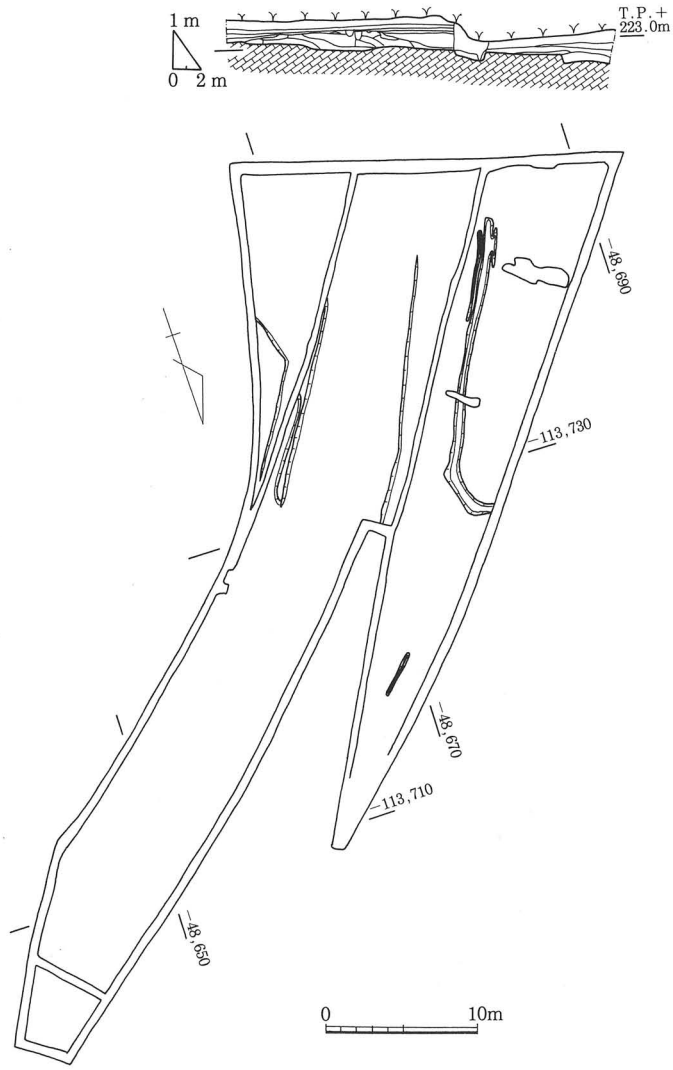
試掘調査は当調査区の西隣の土地で実施されたものであるので、古墳時代の遺跡は当調査区の南西隅までしか広がらないことが確認された。

Ｋ区

Ｋ区は、Ｅ区から東へ130mの位置に設定した調査区である。調査の結果、調査区全体が自然谷で、その肩がかろうじて残っているのを検出した。谷は深さ1.5mで、埋土中より13～14世紀の瓦器や土師器片、磁器片などが出土した。自然谷は、この時期あるいはその直後に埋め立てられて田畑として開発されたものと推定される。当区は前述のように谷を埋めて造成された田畑であるので、流水・湧水が多く、近世～近代の暗渠排水溝が縦横に走る。素掘りのものだけでなく、石で組んで天井石で覆うものもあった。

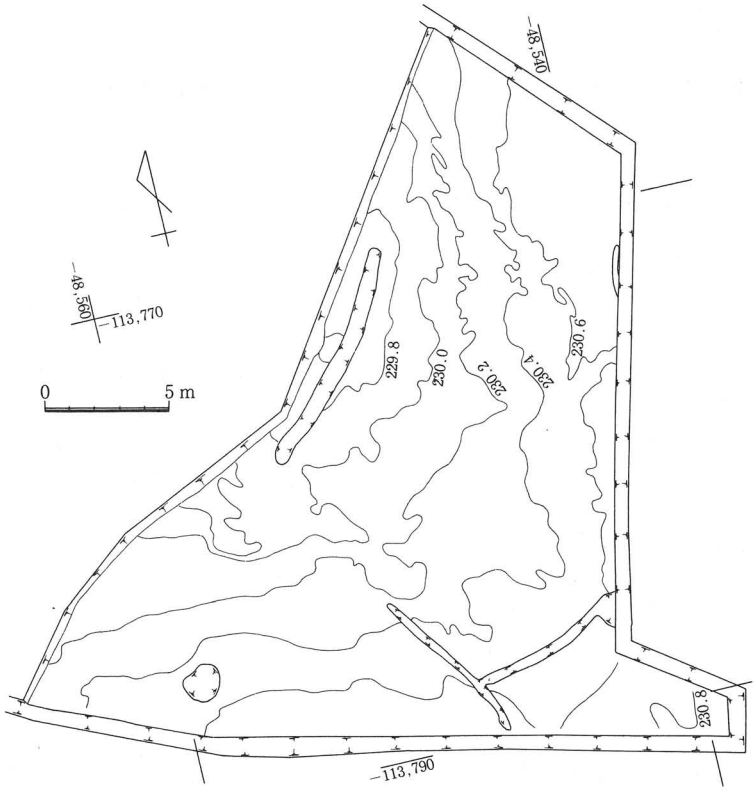
当区の自然谷からの出土遺物としては、最も古いものは緑釉陶器碗（１）であるが、この時期のものは他には非常に少なく、偶然入り込んだ遺物と考えられる。

当区の出土遺物は13～14世紀のものが大半を占める。土師器小皿（２～７）のうち、（６）は口縁端を「く」の字に折り曲げるタイプ、（７）はいわゆるヘソ皿タイプである。瓦器碗（８～12）は外

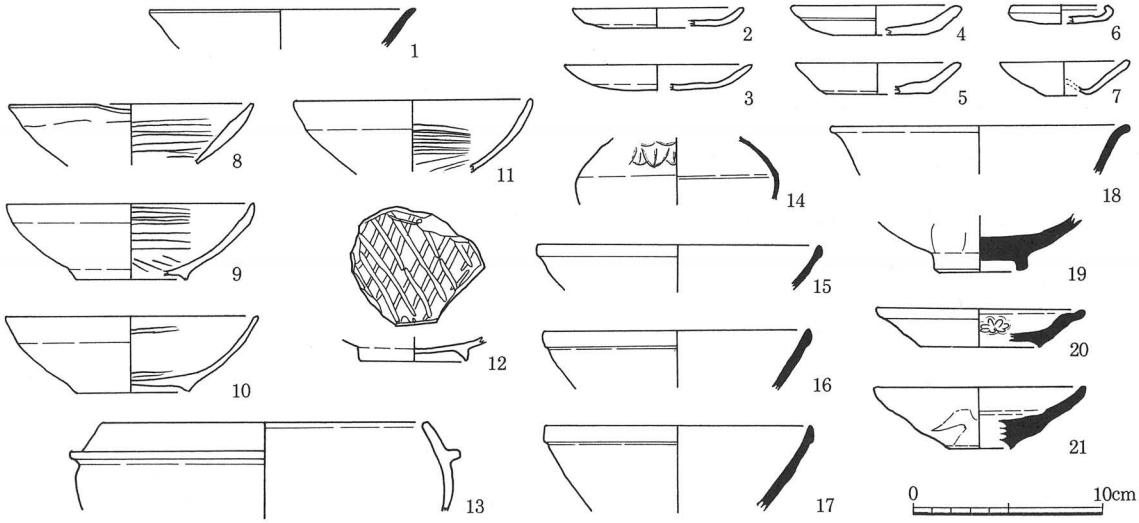


第３図　Ｅ区全体図

面にミガキが見られないもので、（８）は片口を有し、（12）の内面底には格子状暗文をもつ。（13）は瓦質の羽釜。（14）は青白磁であるが、器種は不明。天地逆の可能性がある。（15～17）は白磁、（18・19）は青磁の碗。（20）は瀬戸の皿で、内面に花文のスタンプが押されている。（21）は唐津で、以上とは違ってかなり時期が新しくなる。



第４図　Ｋ区コンター図



第５図　Ｋ区出土遺物

第３章　Ｆ・Ｇ区の調査

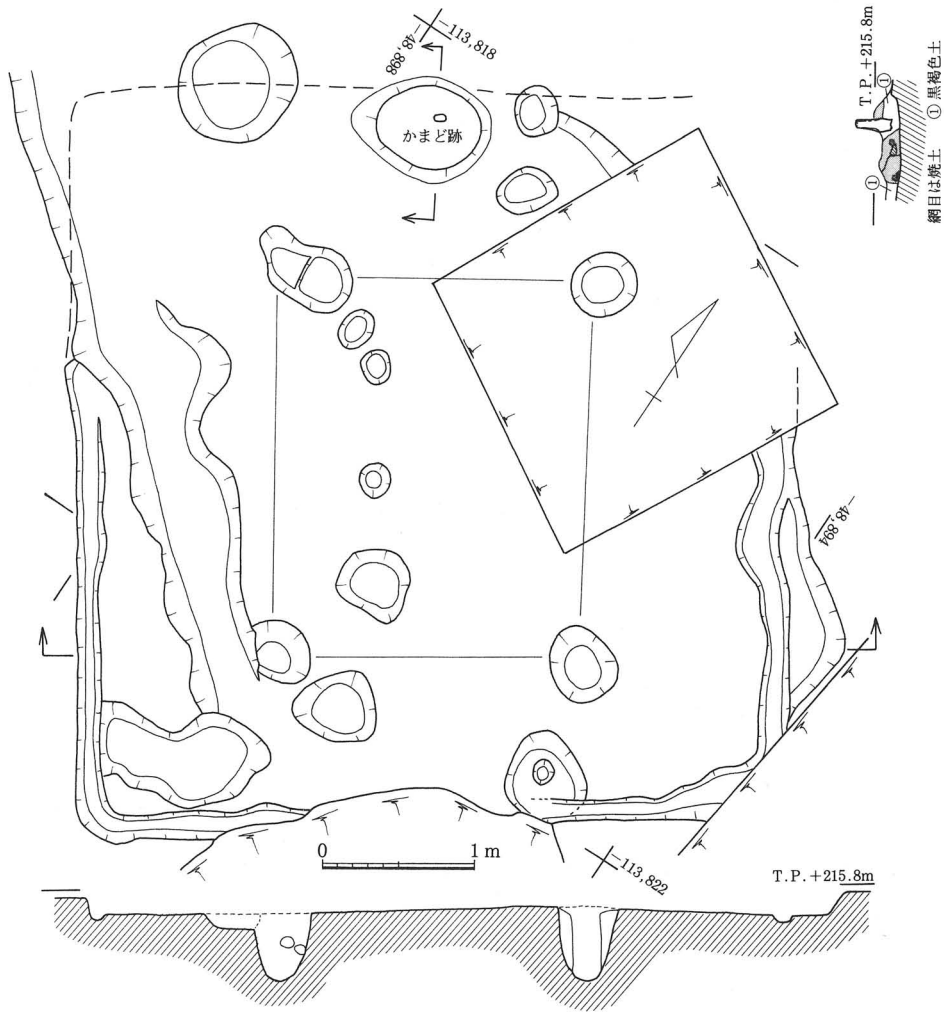
第１節　Ｆ区の調査

Ｆ区はＥ区より南東へ250mの位置に設定した調査区である。調査着手前は中央に2.3mの段差が南北に走り、擁壁として石垣ブロックを積んでいた。段差より西はいわゆる表土下即地山で、遺構・遺物はなかった。段差より東の高台部分に遺物包含層が見られ、遺構が検出された。

現耕作土と黄褐色土の地山との間に遺物包含層が挟まる。調査区の南東ではその層がほとんどなく、北西に行くに従って厚くなる。よって地山面は南東が高く、北西が低くなる。包含層中からは若干の中世の遺物とともに、飛鳥時代の遺物が得られた。この包含層を除去した地山面で遺構を検出した。

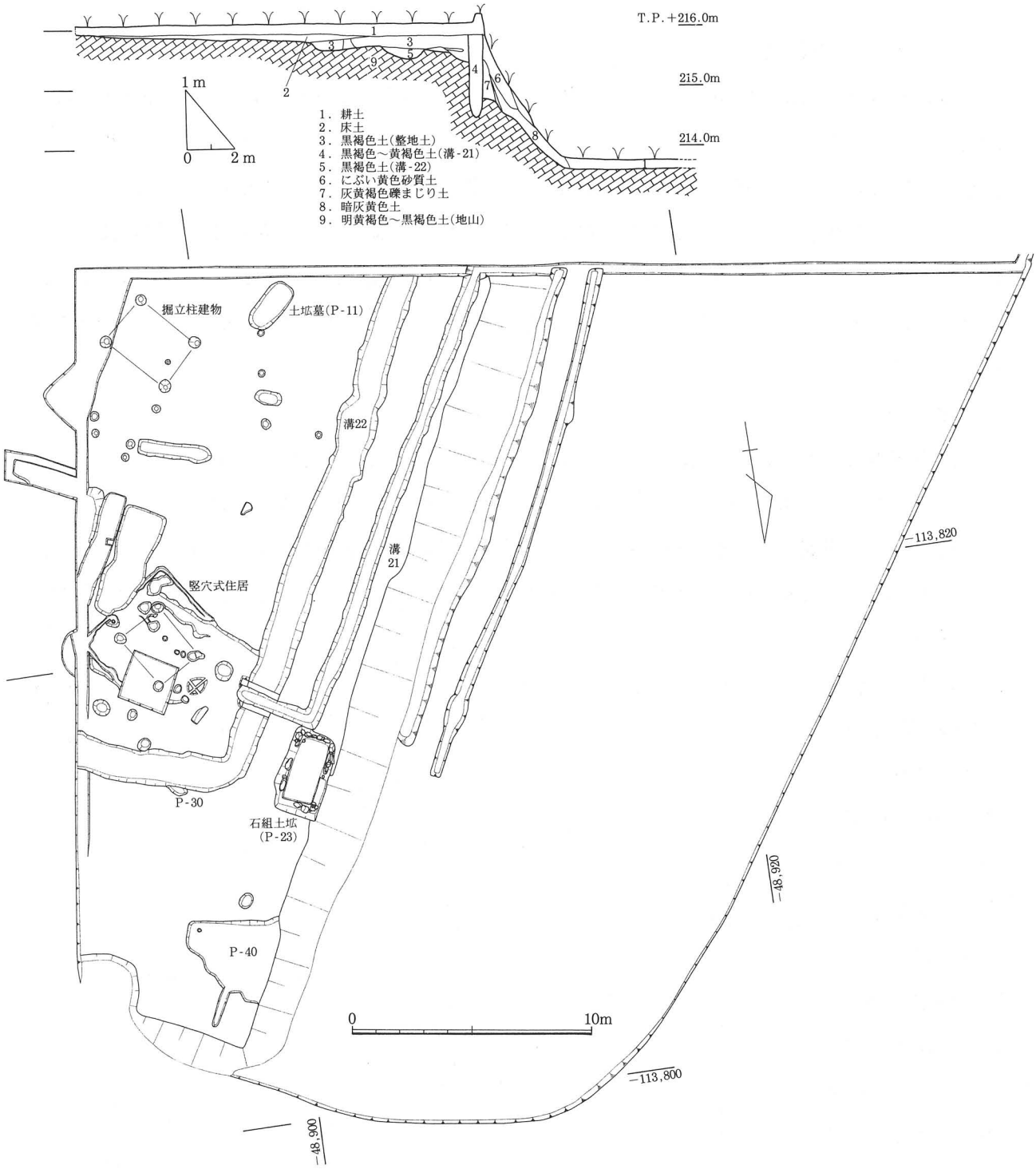
竪穴式住居

当区東端中央で竪穴式住居を検出した。4.7m四方の規模で、方向はＮ－30°－Ｗである。柱穴は四つで、2.0×2.5mの間隔の位置にあり、またそれぞれ径40㎝程、深さ50㎝の大きさで、うち一つの柱穴では径20㎝の柱根が観察された。住居内の周囲には幅15㎝、深さ５㎝のいわゆる壁溝がめぐる。ただし住居の北半は後世に削平されており、その部分については壁溝は検出できなかった。住居の北辺の中央に当たる位置に竈跡を検出した。径70～90㎝、厚さ15㎝の焼土塊が広がるもので、その中央に支脚の石が立ったまま出土した。慎重に精査したが、竈の壁体は見当たらず、住居廃棄時に完全に踏みつぶされ、支脚だけが現位置のまま残ったものだろうと推測した。



第６図　竪穴式住居実測図

住居内からは須恵器坏蓋（22）や土師器の坏（24）、



第７図　Ｆ区全体図

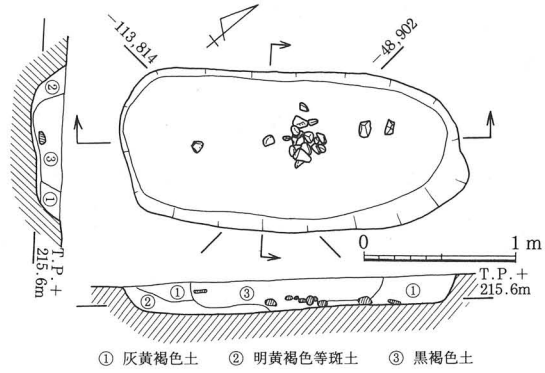
甑（25）、甕（26）が出土した。竈内の焼土中には須恵器・土師器があったが、図化し得たのは須恵器坏（23）である。（27）は竈の支脚の石で、自然石であるが強い火を受けており、赤みがかった色を呈している。

前述したように竪穴式住居の北半は後世に削平されており、この周辺の地山直上層に、住居内にあったと思われる遺物が散乱した状況で出土した。土師器の甕（28～31）、坏（32・33）、須恵

器坏（34・35）、土師器の把手（36）がある。

掘立柱建物

調査区南東隅に１間（2.2m）×１間（3.0m）の掘立柱建物を検出した。竪穴式住居から南へ８ｍの位置にある。柱穴は50㎝、深さ20㎝で、柱根は観察できなかった。建物の方向はＮ－45°－Ｗである。出土遺物はなかった。掘立柱建物としたが、竪穴式住居が大きく削平されて、柱穴のみが残存した可能性もある。



第８図　土坑墓（Ｐ－11）実測図

土壙墓（Ｐ－11）

掘立柱建物の西２ｍの位置に検出した。2.3×1.0m、深さ0.2mの規模で、埋土の中央に黒褐色土が大きく落ち込んでおり、木棺があったものと思われる。出土遺物としては土師器片があるが、図化しえるものはなかった。

以上の竪穴式住居・掘立柱建物・土壙墓は、おおよそ時期は同じと考えられる。

弥生時代のピット（Ｐ－30）

後述の溝－22に切られるピットで、残存規模は0.8×0.4m、深さ0.15mを測る。Ｉ様式末の弥生式土器の壺（39）が出土した。全体的に荒いハケ目の上に、口縁端部では刻目と一条の沈線、頸部および肩部に数条の沈線を施す。なお（40～42）は包含層から出土した弥生式土器である。

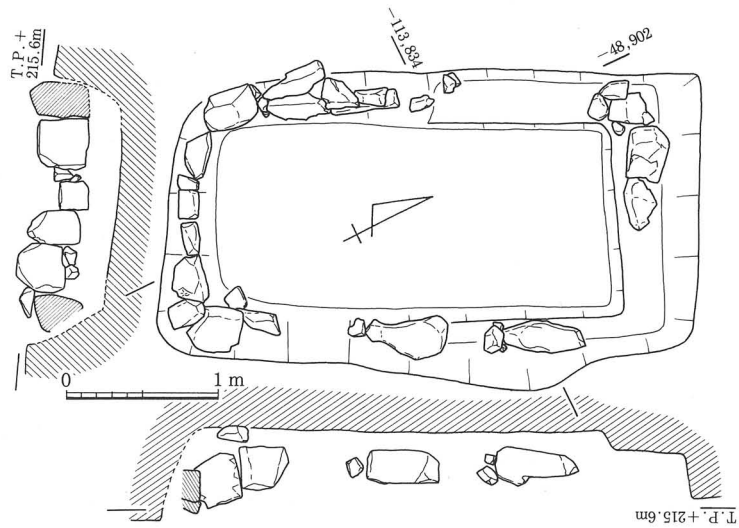
古墳時代のピット（Ｐ－40）

調査区の北東隅に位置するもので、その西半は段差によって切られる。3.5×3.0mの大きさで、深さ0.15m。土師器の高坏（37）、双孔の有孔円盤（38）が出土している。有孔円盤は滑石製と思われるもので、同様のものは能勢町内では岐尼遺跡で四点出土している。

石組の方形土壙（Ｐ－23）

竪穴式住居の北西で、段差の直上の位置にある遺構である。3.5×2.0ｍの方形で、深さ0.5m。四方の壁に石を組んでいるが、半分程は抜き取られていた。埋土の下半は小さな焼土塊を含む褐灰色土である。出土遺物はほとんどなく、時期不明と言わざるを得ない。

近代と考えられる溝－21がこの方形土壙を意識したかのように、直前で直角に曲がっているところから、

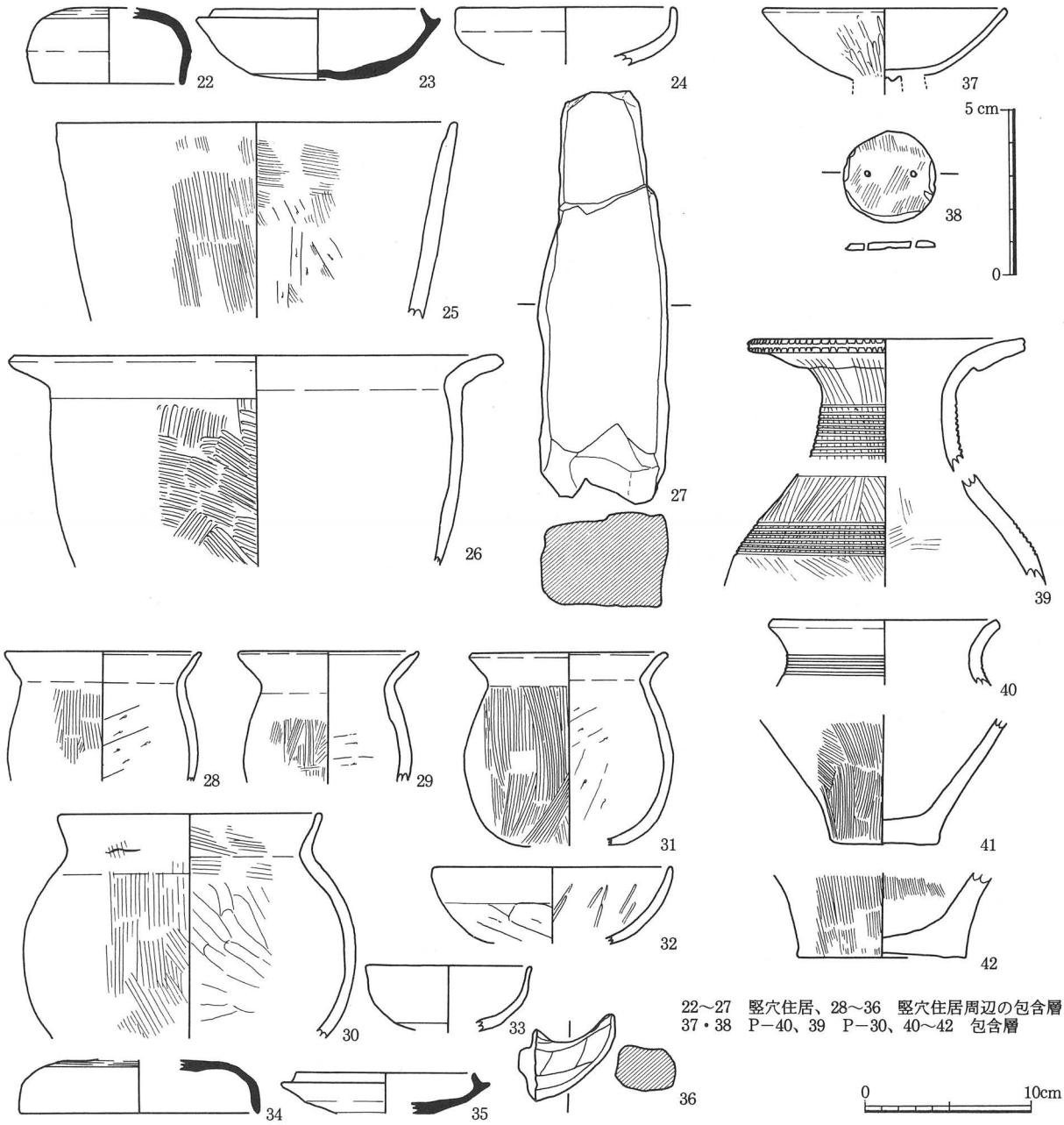


第９図　石組土坑（Ｐ－23）実測図

同溝と同時期と考えたい。

溝－22

調査区東半の高台部分の南から、段差に沿って北に延び、22mのところで直角に東に折れる溝である。幅1.4m、深さ0.25m。出土遺物は少なく、中世の瓦器や土師器の細片が出土したが、図化し得るものはない。またこの溝の内側に小ピットはいくつかあるが、確実に同時期となるものはない。従って屋敷を囲む溝と考えることは今のところ困難である。この溝の性格については不明と言わざるを得ない。



第10図　F区出土遺物（38のみS＝1/2、他は1/4）

第２節　Ｇ区の調査

Ｇ区はＦ区の東に20m離れて設定した、幅８ｍ、長さ30mの調査区である。中央で１ｍ足らずの段差があり、それより西の下段部はいわゆる表土下即地山、東の上段部は表土と地山の間に0.7～0.8mの整地土の互層が挟まる。地山面で遺構を検出した。

溝－26

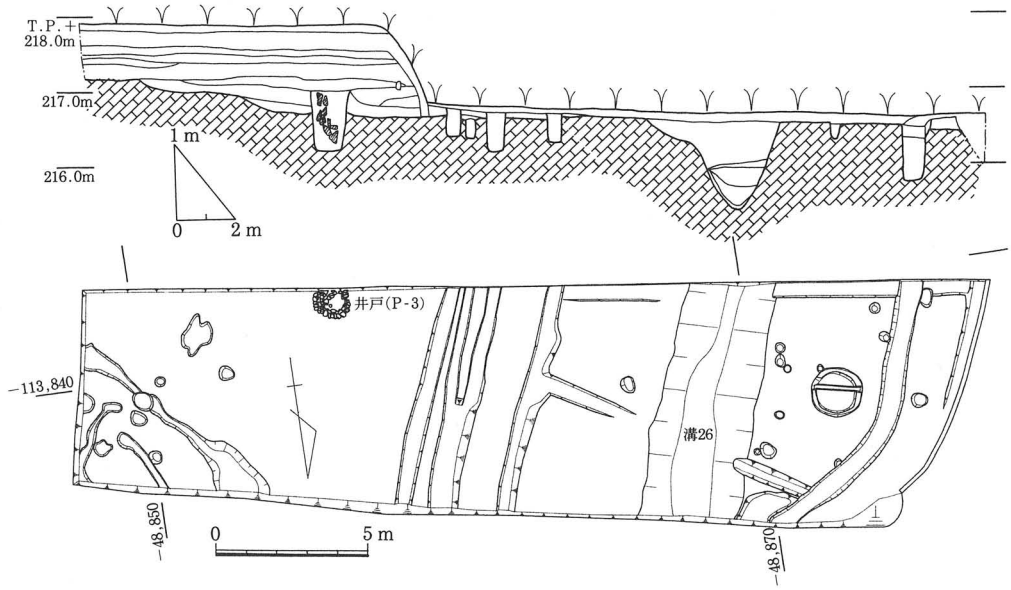
下段中央で南北に走る大溝である。幅3.2m、深さ0.8mを測り、埋土は下層がオリーブ黒色粘質土、上層が灰黄褐色土。下層には有機物を含んでおり、滞水していた状況を示す。出土遺物はほとんどなく、わずかに土師器の細片が若干あったのみである。埋土の状況から現代のものでないのは確かであるが、詳しい時期は不明と言わざるを得ない。

井戸（Ｐ－３）

上段中央の南セクションに沿う位置で検出した。径1.2m、深さ0.9mの規模で、周囲の壁に石を組んでいる。検出時は石組が崩れ、井戸内に石が放り込まれている状況であった。出土遺物はなく、時期は不明。周辺の地山面上で中世の瓦器・土師器の細片を得ているので、この時期の可能性もあるが、確かなことは言えない。

その他の遺構

Ｇ区では他にも小ピット、溝等が検出されたが、ほとんどが遺物を含まない。また埋土の状況からして、近・現代のものが多いと考えられる。



第11図　Ｇ区全体図

第４章　城ケ脇遺跡出土遺物

同事業に伴い発掘調査されて未報告であった標記遺跡の遺物について報告するものである。

当遺跡では、古墳時代末か飛鳥時代と考えられる竪穴式住居１棟と中世の掘立柱建物２棟を検出している。竪穴式住居は３ｍ四方の規模のもので、その南東隅に竈を設けている。（１・２）は竈内から出土した土師器甕、（３）は住居の床面から出土した土師器甕で、ともに完形に復元しえるものである。住居内からは須恵器の出土はなく、図化し得るものは以上の３点であった。

（４～25）は包含層出土のもので、奈良～平安時代前期。須恵器坏（４～12)、須恵器皿（13・14)、土師器坏（15)、土師器皿（16)、黒色土器碗（17・18)、土師器甕（19～23)。特殊なものとして（24）の緑釉碗、（25）の銅碗がある。銅碗は当町内の遺跡では上椿遺跡からも出土している。

（26～187）は平安時代後期～中世に属する遺物で、そのうち（26～179）は包含層、（180～187）は小ピット遺構からの出土である。土師器皿（26～67）のうち（26・27・65・66）が平安時代にさかのぼり、他は中世となろうか。幾種かのタイプがあるが、地元産と見られるものが多く、編年することは難しい。（68～71）は瓦器皿、（72～132）は瓦器碗、（133～136）は土錘、（137）は十能の把手で瓦質のもの。

輸入陶磁器としては青磁（138～150)、白磁（151～168）がある。

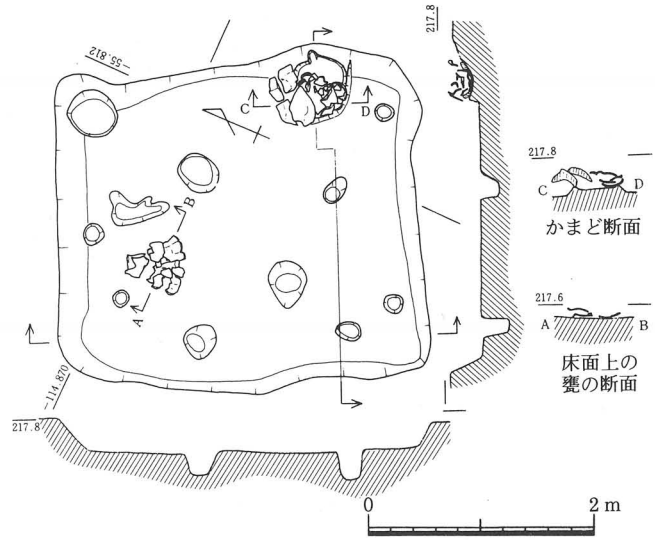
（169）は土師質のタタキ鍋、（170）は瓦質の甕、（171）は瀬戸。（172～175）は滑石製の石鍋片で、うち（175）には二つの孔が穿たれている。（176）は須恵器の甕、（177）は須恵器の鉢、（178）は鉄製の刀子、（179）は鉄釘。

（180・181）はＰ－31、（182・183）はＰ－32、（184）はＰ－92、（185）はＰ－193、（186）はＰ－125、（187）はＰ－39から出土している。

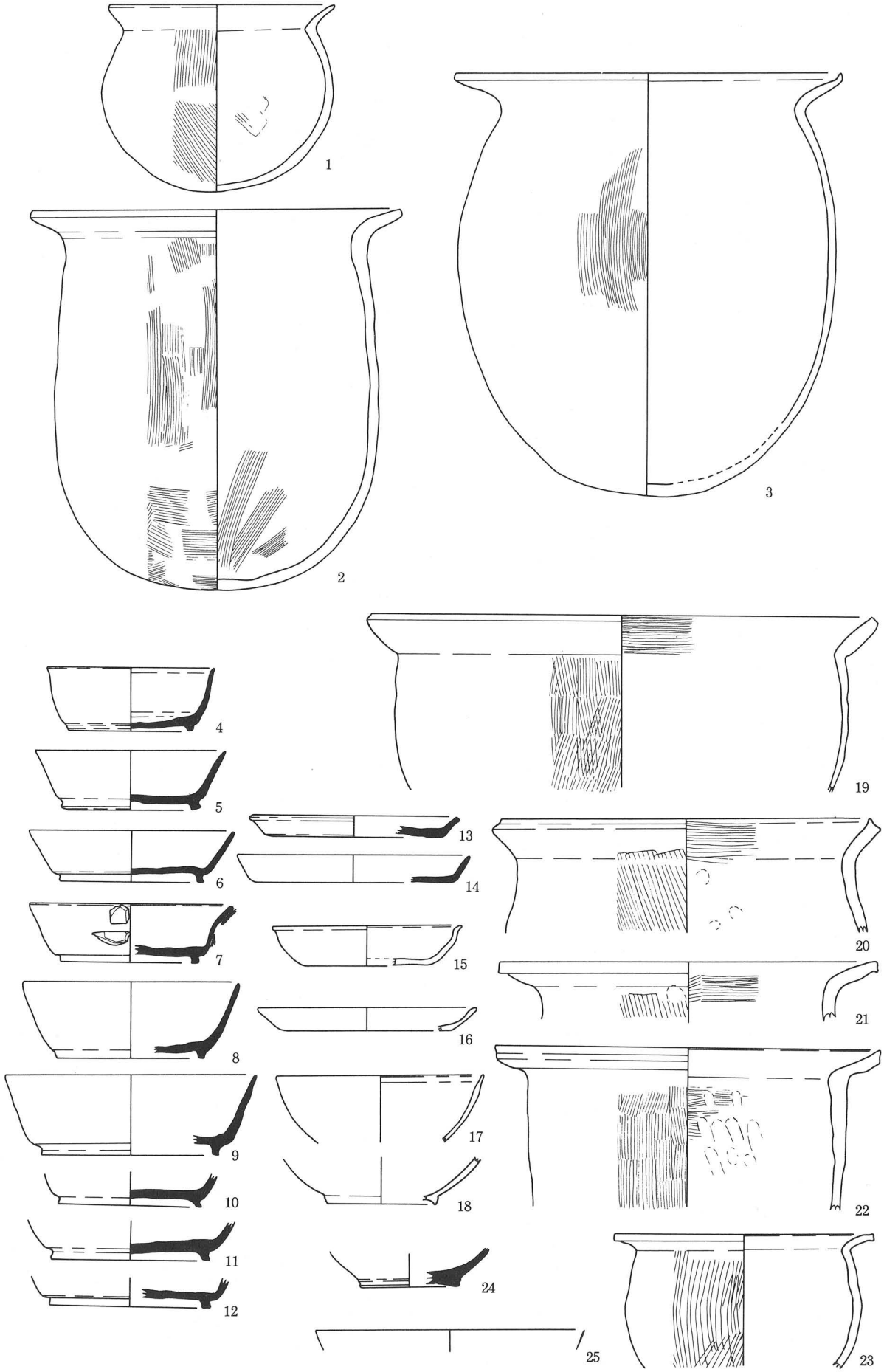
包含層からは古墳時代のものが少量出土している。須恵器の器台（188)、坏蓋（189・190）がある。

ところで能勢町は大阪府下では緑釉陶器の出土する遺跡が多いところで、本遺跡でも一点出土している。尾道遺跡で未報告だったもの（191～195）を合わせてここに報告する。

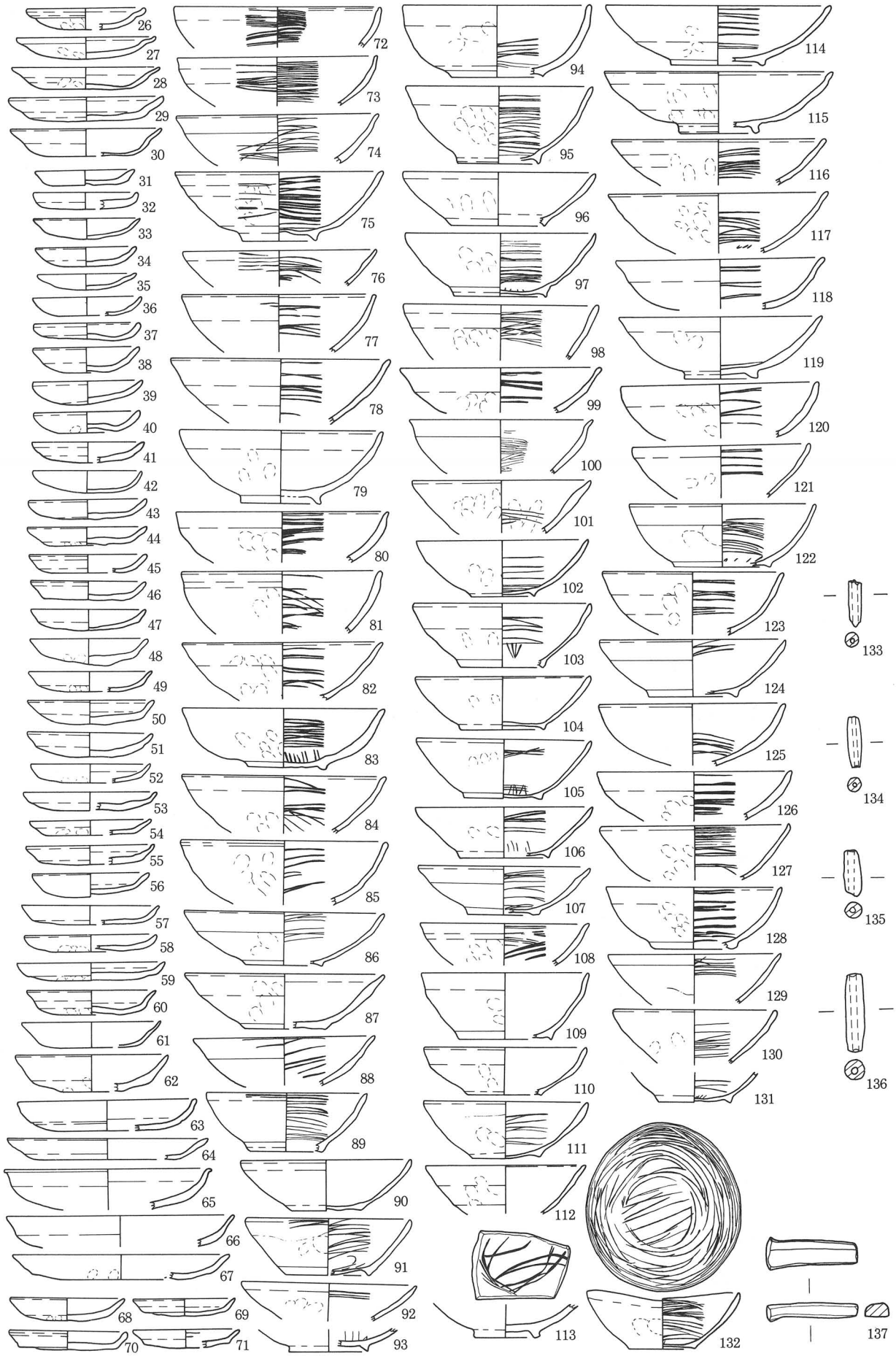
なお本事業に伴う発掘調査は今年度で終了することになるので、これまでの町内の調査の成果をまとめるため、一覧表を作成した。



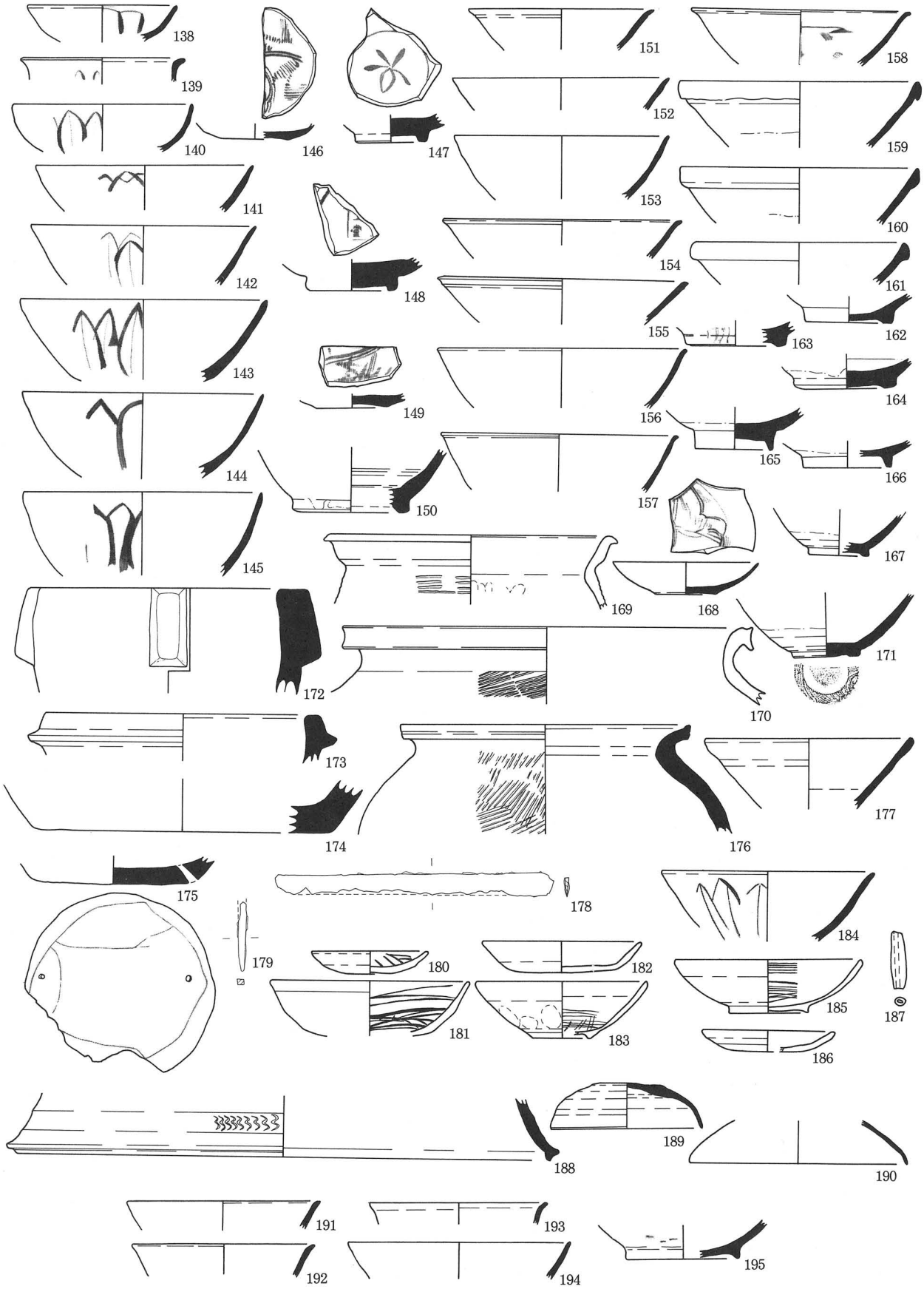
第12図　城ヶ脇遺跡竪穴式住居実測図



第13図　城ヶ脇遺跡出土遺物（1）S＝1/4



第14図　城ヶ脇遺跡出土遺物（２）Ｓ＝1/4



第15図　城ヶ脇遺跡出土遺物（３）Ｓ＝1/4　ただし（191～195）は尾道遺跡出土の緑釉

表１　能勢町の埋蔵文化財関係文献一覧

	文　献　名	発行年	発行機関	報告された遺跡	付　　論
1	『東郷村誌』	1952	東郷村役場	（大型磨製石斧の報告）	
2	『摂津西能勢のガマの研究』	1958	大阪府教委	ガマ	
3	『大阪の文化財』	1962	大阪府教委	岩坪古墳	
4	『地黄北山遺跡・横町遺跡発掘調査概報』	1980	能勢町教委	地黄北山遺跡・横町遺跡	
5	『中筋遺跡発掘調査概要』	1981	大阪府教委	中筋遺跡	
6	『能勢町史第４巻』	1981	能勢町役場	町内の各遺跡の集大成	
7	『節・香・仙　第33号』	1981	大阪府教委	中筋遺跡	
8	『節・香・仙　第34号』	1981	大阪府教委	大里廃寺	
9	『日本城郭大系第12巻』	1981	新人物往来社	町内の城跡11ケ所	
10	『能勢町内における埋蔵文化財の調査１』	1985	能勢町教委	塩山７号墳・姫墓遺跡	「古代・中世土器の研究」
11	『節・香・仙　第41号』	1985	大阪府教委	二ノ院遺跡・稲荷社遺跡	
12	『大里遺跡発掘調査概要』	1985	大阪府教委	大里遺跡	
13	『大里遺跡発掘調査概要・Ⅱ』	1986	大阪府教委	大里遺跡	原秀雄「能勢町の地形分類」 竹原恵二「土壌中火山灰抽出分析」 奥田尚「石材の岩石種」 大澤正己「大里出土の銅滓の金属的調査」
14	『大里遺跡発掘調査概要・Ⅲ』	1986	大阪府教委	大里遺跡	
15	『中筋遺跡発掘調査概要・Ⅲ』	1986	大阪府教委	中筋遺跡・平井所・慈光庵南遺跡	
16	『二ノ院遺跡発掘調査報告』	1986	能勢町教委	二ノ院遺跡	神英雄「能勢の条里型地割の分布と形態」
17	『節・香・仙　第42号』	1987	大阪府教委	稲荷社遺跡	
18	『中筋遺跡発掘調査概要・Ⅳ』	1987	大阪府教委	中筋遺跡	
19	『八ケ岡遺跡発掘調査概要』	1987	大阪府教委	八ケ岡遺跡	
20	『湯屋の下・石ナ町遺跡発掘調査概要』	1987	大阪府教委	湯屋の下遺跡・石ナ町遺跡	
21	『八ケ岡遺跡発掘調査概要・Ⅱ』	1988	大阪府教委	八ケ岡遺跡	
22	『法蓮坂遺跡発掘調査概要』	1988	大阪府教委	法蓮坂・中抜・八斗代・コモク遺跡	
23	『大里遺跡発掘調査概要・Ⅴ』	1988	大阪府教委	大里遺跡	薫科哲男他「町内のサヌカイト産地分析」
24	『東郷地区遺跡群発掘調査概要』	1989	大阪府教委	立縄手・野間氏居館跡・広子古墳	
25	『岐尼南部遺跡群発掘調査概要』	1989	大阪府教委	コモク遺跡・尾道遺跡等６遺跡	
26	『大坂の歴史87　泉北資料館だよりNo.38』	1989	泉北考古資料館	法蓮坂遺跡	
27	『府下埋文研究会（第20回）資料』	1989	(財)文化財センター	広子古墳	
28	『能勢町の中世城郭』	1989	高橋成計	町内の城郭跡28ケ所	
29	『尾道・辻ケ花遺跡発掘調査概要』	1990	大阪府教委	尾道遺跡	
30	『上椿・城ケ脇遺跡発掘調査概要』	1990	大阪府教委	上椿遺跡・城ケ脇遺跡	
31	『円山古墳群発掘調査概要』	1991	大阪府教委	円山古墳群	
32	『コロモ・上椿遺跡発掘調査概要』	1991	大阪府教委	上椿遺跡・コロモ遺跡	
33	『岐尼地区遺跡群発掘調査概要』	1991	大阪府教委	屋組遺跡・上椿遺跡	
34	『岐尼地区遺跡群発掘調査概要・Ⅱ』	1992	大阪府教委	芋垣内遺跡・ガマ	
35	『野間中古墳群発掘調査概要』	1992	大阪府教委	野間中古墳群・九ノ坪・野間遺跡	
36	『能勢に潜幸された安徳天皇』	1992	野木圓之助	岩崎社経塚跡	
37	『府下埋文研究会（第25回）資料』	1992	(財)文化財センター	野間中古墳群	
38	『吉野遺跡発掘調査概要』	1993	大阪府教委	吉野遺跡	
39	『岐尼地区遺跡群発掘調査概要・Ⅲ』	1993	大阪府教委	高田遺跡・八幡社遺跡・ガマ	
40	『泉南郡遺跡群発掘調査概要』	1993	大阪府教委	稲荷社遺跡	
41	『野間神社・橋詰遺跡発掘調査概要』	1993	大阪府教委	橋詰遺跡・野間神社遺跡・条里	

42	『大里遺跡発掘調査報告書』	1993	能勢町教委	大里遺跡	「能勢の古代末・中世前半土器の再検討」
43	『まちかね考古第５号』	1993	阪大考古学研究会	塩山１号墳	
44	『摂河泉文化資料第42・43号』	1993	摂河泉地域史研究	山内備蓄銭	
45	『吉野遺跡発掘調査概要』	1994	大阪府教委	吉野遺跡	
46	『岐尼地区遺跡群発掘調査概要・Ⅳ』	1994	大阪府教委	高田遺跡・八ケ坪遺跡・尾道遺跡	
47	『府下遺跡群発掘調査概要』	1994	大阪府教委	城浦遺跡	
48	『東郷地区遺跡群発掘調査概要』	1994	大阪府教委	坂ノ尻・野間神社・巻場遺跡	
49	『摂河泉文化資料第44号』	1994	摂河泉地域史研究	山内備蓄銭・吉野遺跡備蓄銭	
50	『木野川流域遺跡群発掘調査事業報告書』	1995	能勢町教委	巻場遺跡・条里坪堺	
51	『東郷地区遺跡群発掘調査概要・Ⅲ』	1995	大阪府教委	野間遺跡・巻場遺跡・大門遺跡	
52	『吉野遺跡発掘調査概要・Ⅲ』	1995	大阪府教委	吉野遺跡	
53	『九木田遺跡試掘調査概要報告書』	1995	豊能町教委	九木田遺跡	
54	『府下埋文研究会（第32回）資料』	1995	(財)文化財センター	野間遺跡・巻場遺跡・吉野遺跡	「備蓄銭の緡銭の裏表は偶然か作為か」
55	『まちかね考古第６・７号』	1995	阪大考古学研究会	塩山３・４・５・６号墳	
56	『能勢町埋蔵文化財調査概要』	1996	能勢町教委	吉野遺跡	
57	『木野川流域遺跡群発掘調査事業報告書』	1996	能勢町教委	達田遺跡	
58	『大里遺跡発掘調査報告書Ⅱ』	1996	能勢町教委	大里遺跡・月峯寺宝篋印塔	
59	『山内池尻・畑垣内遺跡発掘調査概要』	1996	大阪府教委	山内池尻遺跡・畑垣内遺跡	
60	『吉野関遺跡発掘調査概要』	1996	大阪府教委	吉野関遺跡・吉野遺跡	
61	『東郷地区遺跡群発掘調査概要・Ⅳ』	1996	大阪府教委	野間遺跡・巻場遺跡	重金誠「巻場遺跡建物群の再検討」ほか
62	『府下埋文研究会（第34回）資料』	1996	(財)文化財センター	原田遺跡	
63	『まちかね考古第８号』	1996	阪大考古学研究会	愛宕社古墳群	
64	『木野川流域遺跡群発掘調査事業報告書』	1997	能勢町教委	西ケ久保遺跡	
65	『能勢町埋蔵文化財調査概要』	1997	能勢町教委	野間遺跡	
66	『東郷地区遺跡群発掘調査概要・Ⅴ』	1997	大阪府教委	野間遺跡・西ケ久保遺跡	
67	『歌垣第２地区発掘調査概要・Ⅱ』	1997	大阪府教委	ハイ原・唐竹・坪ノ内・阪尻遺跡	
68	『原田遺跡発掘調査報告書』	1998	能勢町教委	原田遺跡	
69	『能勢町埋蔵文化財調査概要』	1998	能勢町教委	大里遺跡	
70	『倉垣遺跡発掘調査概要』	1998	大阪府教委	倉垣遺跡	
71	『まちかね考古第９号』	1998	阪大考古学研究会	戸田山古墳群・狐塚古墳	
72	『倉垣遺跡（Ｅ区等）発掘調査概要』	1999	大阪府教委	倉垣遺跡・城ケ脇・尾道遺跡	
73	『府下埋文研究会（第38回）資料』	1999	(財)文化財センター	巻場遺跡・野間遺跡	
74	『野間遺跡発掘調査報告書』	1999	能勢町教委	野間遺跡	
75	『中世の出土銭』	1994	兵庫埋蔵銭調査会	山内備蓄銭	
76	『中世の出土銭　補遺１』	1996	兵庫埋蔵銭調査会	吉野遺跡備蓄銭	
77	『出土銭貨第５号』	1996	出土銭貨研究会	吉野遺跡備蓄銭	
78	『大里遺跡発掘調査概要・Ⅶ』	1993	大阪府教委	大里遺跡	
79	『中世土器研究41号』	1987	中世土器研究会	大里遺跡	
80	『中世土器研究55号』	1990	中世土器研究会	大里・中筋・法蓮坂遺跡	
81	『中近世土器の基礎研究Ｘ』	1994	中世土器研究会	古代～中世の町内各遺跡	
82	『府下埋文研究会（第7回）資料』	1982	(財)文化財センター	川尻遺跡	
83	『府下埋文研究会（第12回）資料』	1985	(財)文化財センター	大里遺跡	
84	『府下埋文研究会（第13回）資料』	1986	(財)文化財センター	大里遺跡、余野城跡	
85	『府下埋文研究会（第15回）資料』	1988	(財)文化財センター	法蓮坂遺跡	
86	『余野城跡発掘調査概要』	1992	大阪府教委	余野城跡	
87	『切畑中ノ垣内遺跡発掘調査概要』	1993	大阪府教委	切畑中ノ垣内遺跡	
88	『豊能町史　本文編』	1987	豊能町役場	町内各遺跡	

表２　縄文式土器出土遺跡

遺　跡　名	地区名	文献番号	遺物番号	時　期	報告点数
大里遺跡		12	29	後期	1点
		13	1～18	前・後・晩期	18点
		14	120	後期	1点
		42	1～4	前・後・晩期	4点
	大里	98年度調査未報告		早期	
中筋遺跡		5	第５～10図	前期	84点
		6	1～72	前期	72点
	山辺	18	1～14	早・前・後期	14点
野間遺跡		35	249・250	前・晩期	2点
	野間中	24	96～99	早・後期	4点
		51	4～8	早期	5点
		61	302		1点
		66	258～281	早・前・中・後・晩期	24点
	野間稲地	74	190～207	晩期	18点
野間神社遺跡	地黄	48	137～139	後期	3点
地黄北山遺跡	地黄	5	1～8	早・前・後・晩期	8点
		6	図20	早期	4点
寺田遺跡	寺田	88	報告文のみ		

表３　弥生時代遺跡

遺　跡　名	地区名	文献番号	遺　物　番　号	遺物の種類	時　期	主　な　遺　構
倉垣遺跡(ハイ原)		67	11、12、62、76、153、154	壷、甕、製塩土器	中期	竪穴式住居
		70	25～46	壷、甕	前～中期	
		72	39～42	壷、甕	前～中期（Ⅰ～Ⅳ）	
	倉垣	98年度調査未報告		壷、甕、石包丁等	前～中期（Ⅰ～Ⅲ）	竪穴式住居、方形周溝墓
原田遺跡	倉垣	68	1～23、39～86、180～187	壷、水差、磨製石剣等	中～後期（Ⅲ～Ⅴ）	丘陵上の方形周溝墓群
稲荷社遺跡		6	報告文のみ			
		11	17～22、26	壷、甕、磨製石斧等	中期（Ⅲ～Ⅳ）	
	上田尻	17	1～21	壷、甕、鉢等	中期（Ⅲ～Ⅳ）	
地黄北山遺跡	地黄	4	1～4、①～⑦	壷、石鏃	中～後期（Ⅲ～Ⅴ）	竪穴式住居
横町遺跡	倉垣	4	報告文のみ		中期（Ⅱ）	
暮坂遺跡	山内	6	報告文のみ	有柄式石鏃		
野間神社遺跡		41	報告文のみ			
	地黄	48	141～147、173	甕、高坏	中～後期（Ⅳ～Ⅴ）	
巻場遺跡	地黄	48	報告文のみ			
古路遺跡	地黄	6	報告文のみ		後期	
大里遺跡		13	19～173、S1～S24	壷、甕、石鏃、石包丁等	前～中期（Ⅰ～Ⅳ）	方形周溝墓、土器棺、土壙
		14	100～110、114、115	壷、甕、磨製石剣	中期	河川
	大里	42	5～18、203	壷、甕、磨製石剣	前～中期	
吉芝遺跡	森上	6	図25の8	甕	前期	
森ノ浦遺跡	森上	6	図26の4	甕	後期	
岐尼小学校遺跡	今西	6	図22の18、19	甕、磨製石剣	中期	
堅田遺跡	今西	6	報告文のみ		後期	

表４　竪穴式住居

遺　跡　名	調査区	住居番号	規模と形状	柱穴数（検出数）	炉あるいは竈	時　期	文献番号
大里遺跡	H-11		方形	（2）		古墳時代前期	13
	H-12		方形			古墳時代前期	13
法蓮坂遺跡	A、B区		南北5.5m以上の方形	4（2）	西辺中央に竈	古墳時代	22
上椿遺跡	A区	1	1辺5.5mの方形	4（2）		古墳時代前期	30,33
		2	1辺5.5mの方形	（0）		古墳時代前期末	33
	B区	3	1辺4.5mの方形	（0）		古墳時代後期	33
		4	1辺6mの方形	（0）	西端東部に焼土	古墳時代前～後期	33
	E区	5	1辺4.3mと4.1m（建替）	4（3）	西端に焼土塊	古墳時代後期	33
	F区	6	1辺4.5m（建替？）	4（4）	西側床面に炉	古墳時代前期末	33
城ヶ脇遺跡			2.8×3.0mの方形	4（4）	東辺南寄りに竈	古墳時代末期	72
屋組遺跡	26区		方形	（0）		古墳時代	25
野間遺跡	3区	1	5.3×5.9m以上の方形	4（4）	北側中央に竈　袖石	飛鳥時代Ⅰ	51
		2	4.8×3.9m	（0）	北側中央に竈　袖石と支脚	飛鳥時代Ⅱ	51
		3		4（2）			51
		4		（0）			51
		5		（0）	東壁に竈　袖石		51
		6	6.1×4.3mの不整方形	（0）	北半部中央に焼土	飛鳥時代Ⅱ	51
		7	5.4×4.6mの方形		北壁中央に竈	飛鳥時代Ⅱ	51
		8					51
		9	5.3×4.5mの方形	4（4）	北側中央に竈	飛鳥時代Ⅱ	51
		10			焼土	飛鳥時代Ⅲ	51
		11	4.6～7.6mの不整方形		北壁東寄りに焼土		51
		12			焼土		51
		13	南北4.6mの方形		南西壁に焼土		51
		14	4.5×3.2mの方形	（0）			51
	5区	1	4.0×3.7mの方形	（0）	北西隅に竈	飛鳥時代Ⅲ	51
		2	1辺7～8mの方形				51
	8区	1		4（1）	北辺中央に竈	飛鳥時代Ⅲ以降	51
	L区	1	4.2×3.5mの方形	4？（2）	西辺中央に竈	飛鳥時代	66
		2	5.8×6.0mの方形	4（4）	西辺中央に竈	古墳時代末期	66
		3	6.6×7.0mの方形				66
		4					66
		5	3.0×4.0mの方形	4（4）	西辺中央に竈		66
		6	5.7×6.0m以上の方形	4（4）		古墳時代後期	66
		7					66
		8	6.6m四方の方形	4（4）	西辺中央に竈	古墳時代末期	66
巻場遺跡	2区		3.8×3.4mの方形	（0）	北側に焼土	古墳時代後期	51
倉垣遺跡	A区	1	5.3m四方の方形	4（2）	西辺中央に竈　支脚	飛鳥時代	70
		2	1辺4.9mの方形	4（2）			70
		3	1辺5.0mの方形	4（4）	西辺中央に焼土		70
（ハイ原）	D区	SH47	径6.4mの円形	4、5、6（建替）	中央ピットに炭灰	弥生時代中期	67
	F区		4.7m四方の方形	4（4）	西辺中央に竈　支脚	飛鳥時代	72
	H区		方形2棟	4（2）	98年度調査未報告	古墳時代後期	
	I区		方形1棟	2（2）		古墳時代前期	
			円形3棟	4～6（建替）		弥生時代中期	
	J区		円形1棟	6？（3）		弥生時代中期	
唐竹遺跡	A区		1辺3.6mの方形	0（0）	火を受けた中央ピット	古墳時代後期	67
地黄北山遺跡	A地点		1辺2.5mの方形			弥生時代後期	4
原田遺跡			？				68

表５　緑釉陶器出土遺跡

遺　跡　名	所在地区名	文献番号	遺　物　番　号	報告点数	調査実施年度
尾道遺跡		２５	報告文のみ		
		７２	191～195（碗）		1988年度
		２９	26・27（碗）		
	垂水	４６	124～128（碗）	12点	1989年度
屋組遺跡	垂水	３３	３（皿）、31・63～65（碗）	５点	1990年度
岩坪古墳	神山	6	報告文のみ(碗)	１点	1951年度
城脇遺跡	神山	７２	24（碗）	１点	1989年度
法蓮坂遺跡	稲地	２２	25・26・４９（碗）	３点	1987年度
大里遺跡	大里	１２	３（碗）		1984年度
		１３	280（皿）、323・324（碗）		1985年度
		１４	31・59・119（碗）、58（皿）		1985年度
		４２	180～183（碗）	12点	1991年度
八ケ岡遺跡	宿野	２１	33（碗）	１点	1987年度
坂ノ尻遺跡	地黄北	４８	88（陰刻花文輪花皿）、２（碗）	２点	1993年度
九ノ坪遺跡	地黄南	３５	203（碗）	１点	1991年度
野間遺跡	野間稲地	６６	121・240（碗）		1996年度
		７４	19～21、120（碗）	６点	1998年度
立縄手遺跡	野間中	２４	83・93～95（碗）	４点	1988年度
吉野遺跡	吉野	４５	８・10・11（碗）、９・12（皿）	５点	1993年度
山内池尻遺跡	山内	５９	50（碗）	１点	1995年度
阪尻遺跡	山内	６７	140・141（碗）	２点	1996年度
倉垣遺跡	倉垣	７２	１（碗）	１点	1998年度

表６　出土した文字資料（古銭・中国製磁器を除く）

遺　跡　名	所在地区名	文　字　名	遺物の種類		時　期	文献番号
尾道遺跡	垂水	「厨」「出」「□東」	須恵器坏	墨書	8～9世紀	29
野間遺跡	野間稲地	「□奈麻□」	土師器	墨書	8～9世紀	66
法蓮坂遺跡	稲地	「當氏之印」	銅印	陽刻	9世紀	22
吉野遺跡	吉野	「林」	須恵器坏	墨書	9世紀	45
大里遺跡	大里	「西殿」	土師器坏	墨書	9世紀	13
屋組遺跡	垂水	「田中西」「定□」	曲物	墨書	10世紀	33
九ノ坪遺跡	地黄南	「畠中」	黒色土器碗	墨書	10世紀	35
岩崎社経塚	野間出野	「養和元年十月五日聖人澄珍願主米多氏」	銅鍍銀経筒	線彫	12世紀	36・74
野間遺跡	野間稲地	「澤一」	漆器皿	漆書	14世紀	61
月峯寺宝篋印塔	大里	宝篋印陀羅尼経ほか	銅製経筒と奉納経		18世紀	58

表７　製塩土器出土遺跡

遺　跡　名	文献番号	遺　物　番　号	出　土　量	時　期
大里遺跡	13	240		8世紀前～中葉
法蓮坂遺跡	22	54		平安時代前期
尾道遺跡	29	報告文のみ		
	46	75～80		
	66	報告文のみ	１万点以上　116.7kg コンテナ10箱	奈良～平安時代前期
野間遺跡	61	256～264	コンテナ１箱	奈良～平安時代前期
	66	122～131		奈良～平安時代前期
大門遺跡	51	写真のみ		奈良時代
倉垣遺跡	67	53、55		弥生時代後期
	98年度調査未報告			古墳時代前・中期
九木田遺跡	53	12、18		奈良時代後期
余野城中所地区	未報告			平安時代前期

表８　古式土師器出土遺跡

遺　跡　名	地区名	文献番号	遺　物　番　号	種　類	主　な　遺　構
岐尼遺跡	今西	6	図15の1～13、図16の15～20	壷、甕、小型丸底壷、小型器台等	土器溜まり、環状列石
堅田遺跡	今西	6	図27の1～9	壷、甕、高杯、小型丸底壷	
岐尼小学校遺跡	今西	6	図22の17	小型丸底壷	
上椿遺跡	神山	33	96～113	壷、甕、高杯、鉢	竪穴式住居
		30	2	小型丸底壷	ピット
屋組遺跡	垂水	25	写真のみ	甕、高杯	竪穴式住居
大里遺跡	大里	13	197～218	壷、甕、高杯、鉢、小型丸底壷等	竪穴式住居
		14	報告文のみ		
達田遺跡	地黄	48	102、113～115	甕、高杯	SK
野間神社遺跡	地黄	48	142、156～160、171、172	甕、高杯	
巻場遺跡	地黄	57	13～32	甕、壷、高杯、坏	
西ヶ久保遺跡	野間稲地	48	２０１	高杯	
		66	245～247	甕	
		64	16～22	甕、高杯	流路
唐竹遺跡	山内	59	121～129	甕	
		67	92～97、104～106	壷、甕、高杯	土坑群、竪穴式住居、溝
阪尻遺跡	山内	67	128～131	壷、甕	溝、自然流路、しがらみ
原田遺跡	倉垣	68	83～86	壷、甕、Ｓ字状口縁	土坑
倉垣遺跡	倉垣	９８年度調査未報告		壷、甕、鉢、高杯、製塩土器等、	溝、竪穴式住居

表９　井戸遺構

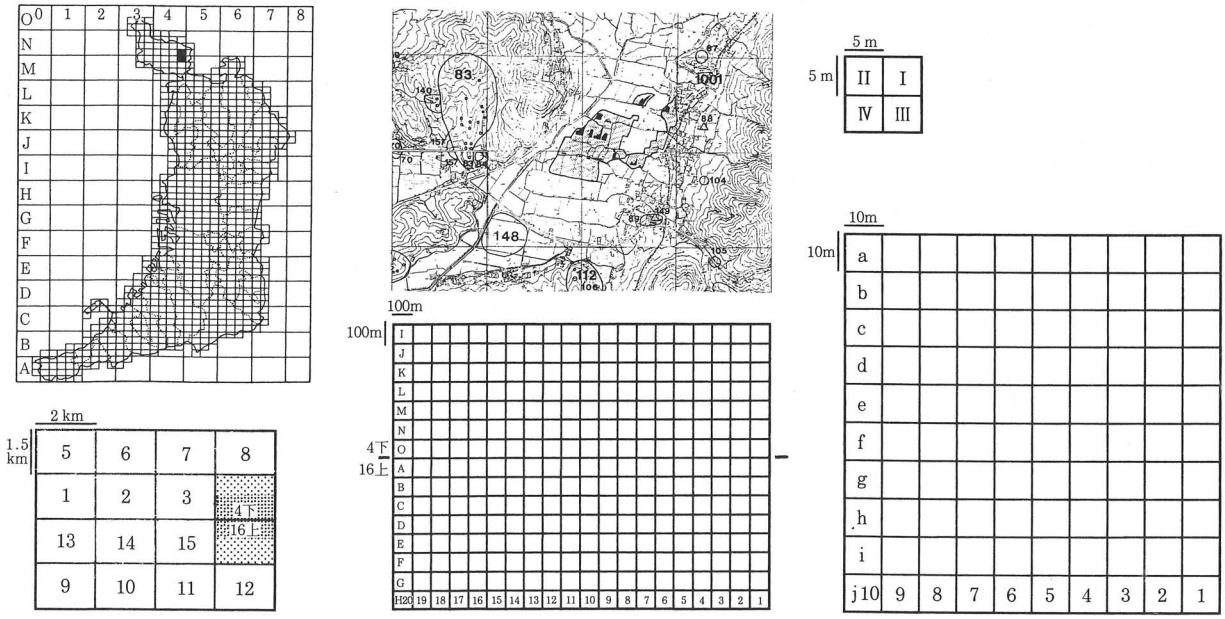
遺　跡　名	遺構番号	検　出　規　模	形　状	時　期	出　土　遺　物	文献番号
尾道遺跡	井戸1	径1.5m、深さ2.7m	上半が内径0.5m、下半が1辺0.6m	平安時代前期	黒色土器、緑釉	29
	井戸2	径0.7m、深さ0.8m	底に曲物			
	井戸3	径0.9m、深さ0.7m	素掘り	平安時代中期	黒色土器3～5	
	井戸4	径0.8m、深さ0.7m	素掘り			
屋組遺跡	井戸1	径1.5m、深さ1.7m	素掘り	平安時代	黒色土器、須恵器	33
	井戸8	1辺2.2m、深さ1.9m	1辺1.3mの木枠、底に曲物	平安時代中期	須恵器等4～31	
上椿遺跡	井戸1		石組	近年		30
	井戸2	径1.5m、深さ1.8m以上	1辺0.8mの木枠、底に曲物	12世紀	瓦器椀1	
	井戸3	径1.2m、深さ1.5m以上	1辺0.4mの木枠	平安時代前期		
大里遺跡	井戸10	径1.5m、深さ0.6m	素掘り	鎌倉時代	瓦器椀等29～52	42
倉垣遺跡	G区	径1.2m、深さ0.9m	石組	不明（近年？）		72
西ヶ久保遺跡	N区	径1.3m、深さ1.0m	内法径0.7mの石組、底に曲物	13世紀	瓦器椀等252、253	66
野間遺跡	H区	径0.5m、深さ0.3m	底に曲物	14世紀	瓦器椀104	66
		径2.5m、深さ2.5m	内法径0.9mの石組	13～14世紀		74

報　告　書　抄　録

ふりがな	くらがきいせきＥくとうはっくつちょうさがいよう
書名	倉垣遺跡（Ｅ区等）発掘調査概要
副書名	農村基盤整備事業「歌垣地区」に伴う調査・Ⅴ
巻次	
シリーズ名	
編著者名	辻本　武
編集機関	大阪府教育委員会　文化財保護課
所在地	〒540－8571 大阪府大阪市中央区大手前２丁目　TEL 06(6941)0351(代表)
発行年月日	1999年３月

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 (m²)	調査原因
くらがきいせき 倉垣遺跡	おおさかふとよのぐん 大阪府豊能郡 のせちょう 能勢町 くらがきちない 倉垣地内	27322		34° 58′ 19″	135° 27′ 50″	1997年11月～ 1998年２月 1998年11月～ 1999年３月	900m² 530m²	圃場整備

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
倉垣遺跡	集落跡	弥生時代	小ピット	壺	
		古墳時代	ピット	土師器高杯、有孔円盤	
		飛鳥時代	支脚のある竈付きの竪穴住居	須恵器杯、土師器甕、杯	
		中世	谷状遺構	瓦器、土師器、白磁等	



倉垣遺跡地区割表示図

図　　版

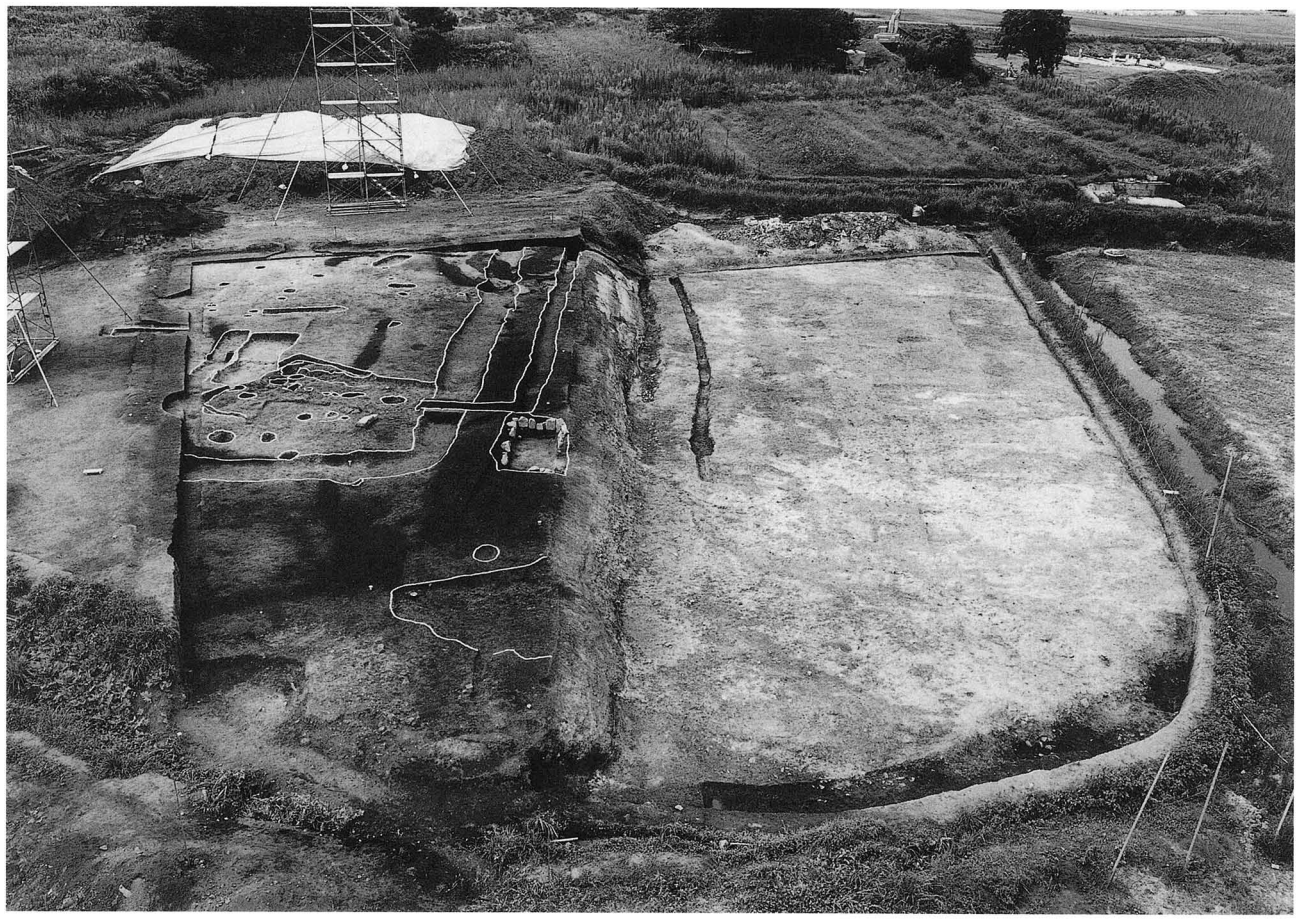
歌垣地区と京都丹波の山並（南から）

図版一　E・K区全景

E区空中写真

K区空中写真

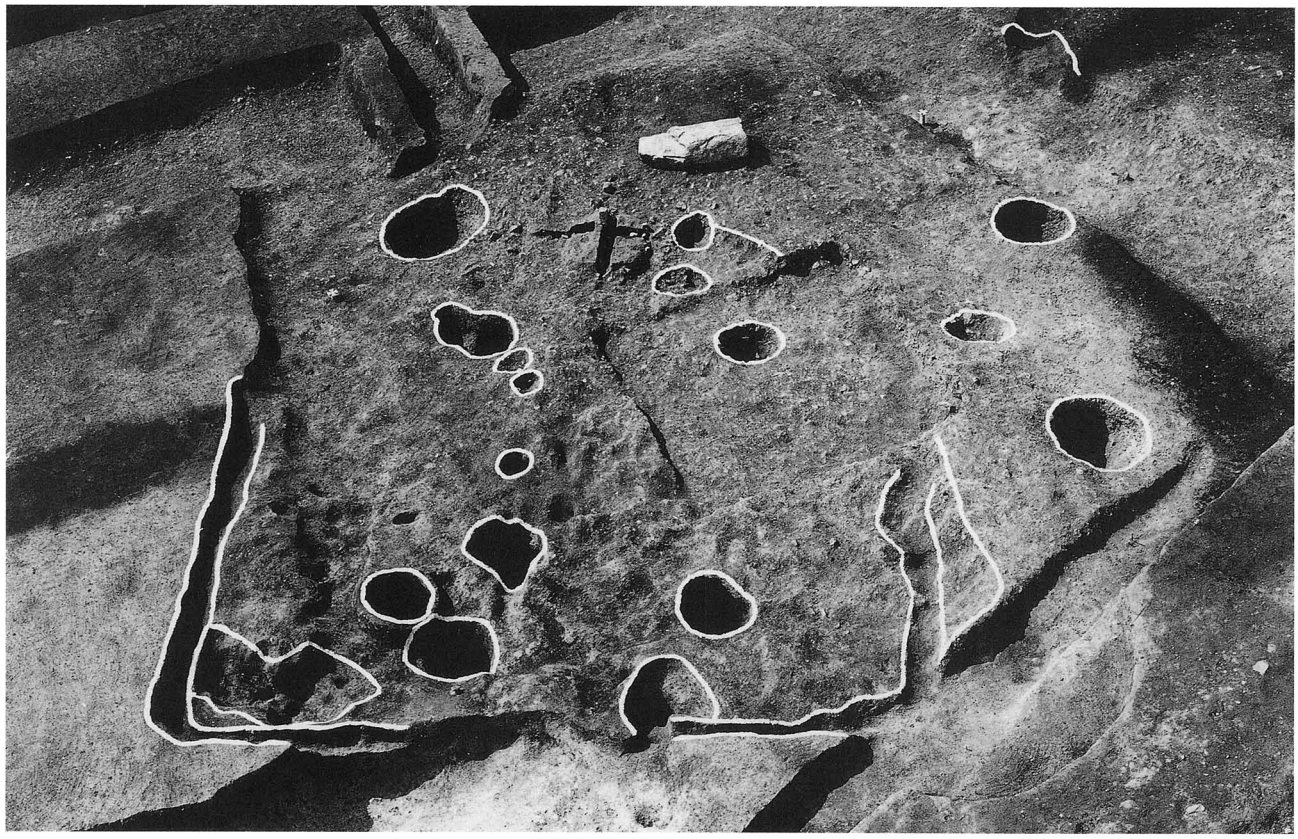
図版二　F・G区全景



F区全景（北から）

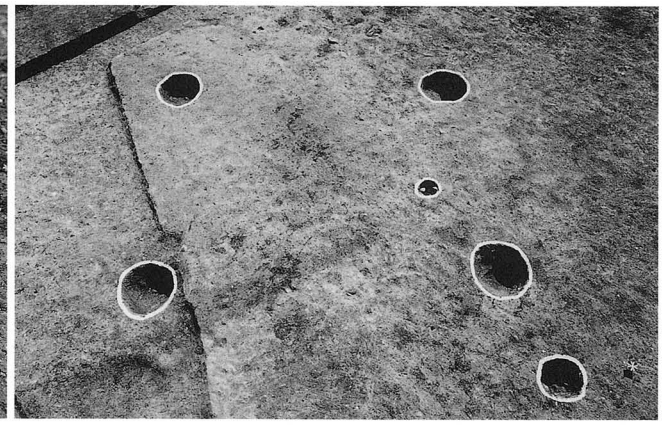
F・G区空中写真

図版三　F区各遺構

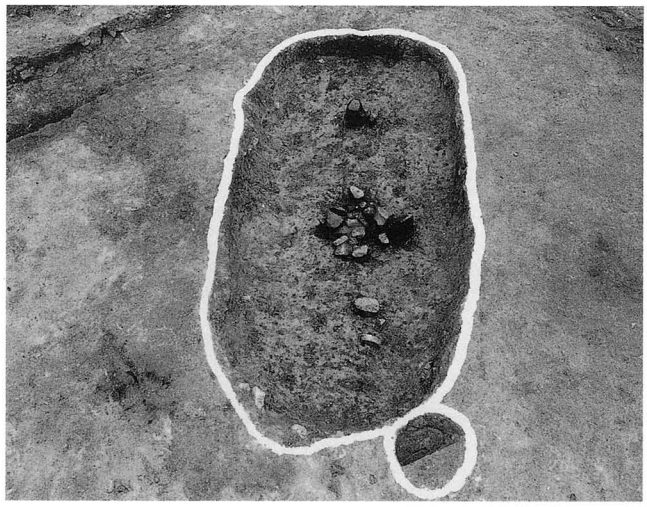


竪穴式住居（南東から）

竈の支脚（北から）



掘立柱建物（北東から）



土坑墓（北東から）

石組方形土坑（北から）

図版四　G区

G区全景（西から）

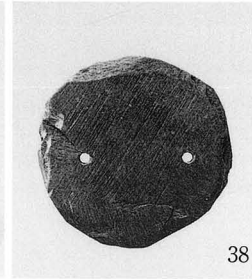
井戸（北東から）

溝－26断面（北から）

図版五　F区出土遺物

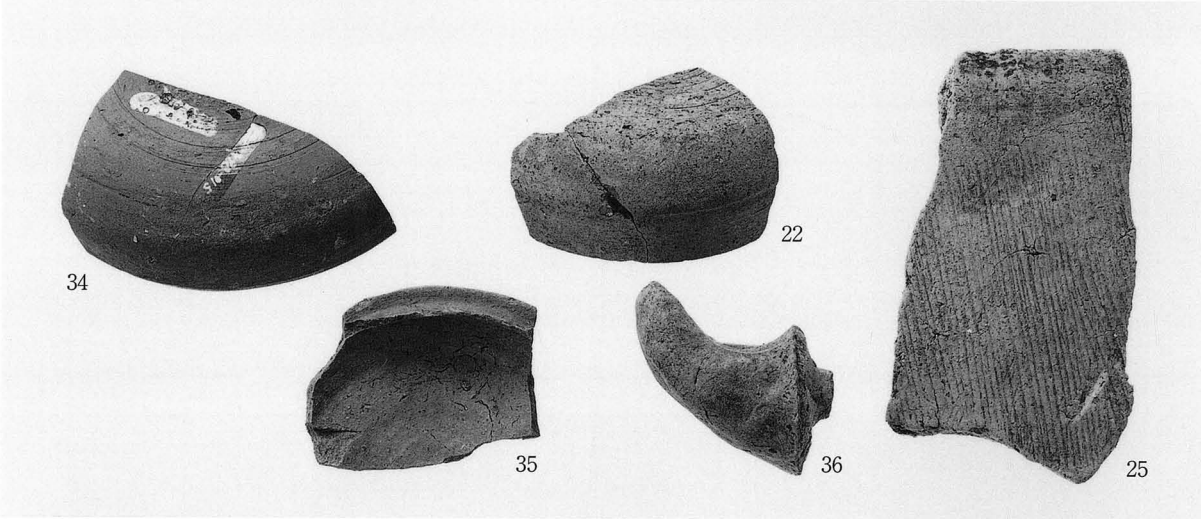
23

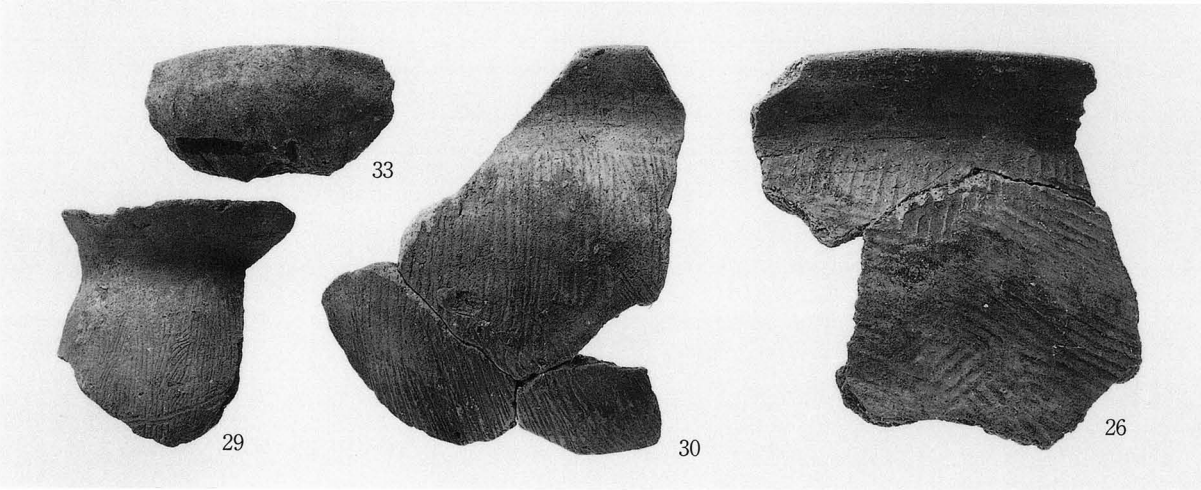
37


38

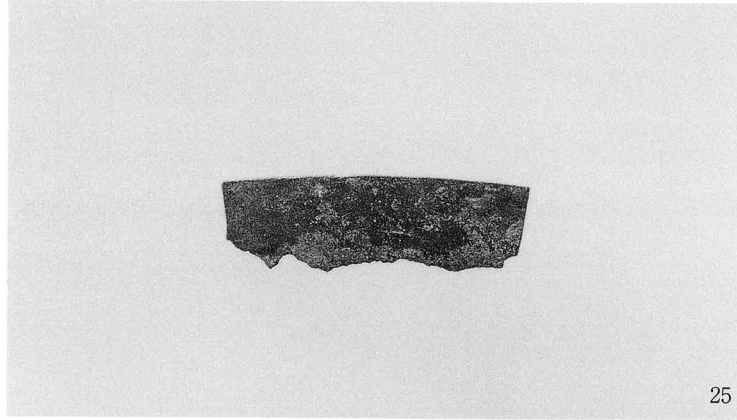
31

39

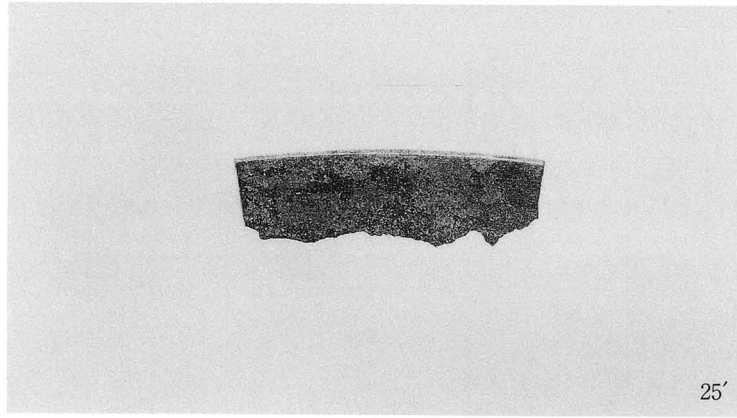




竪穴式住居跡出土の土師器



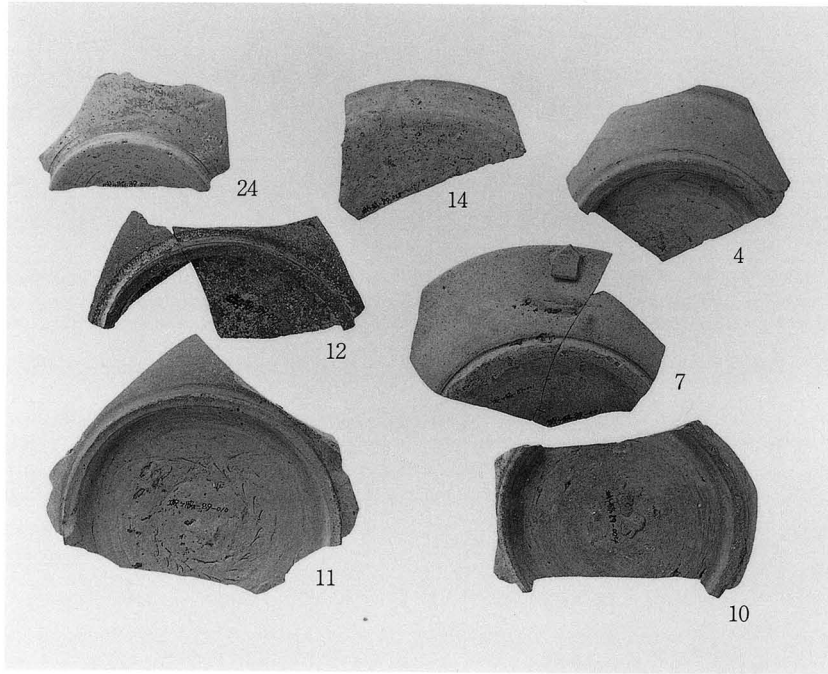
銅碗片（表）



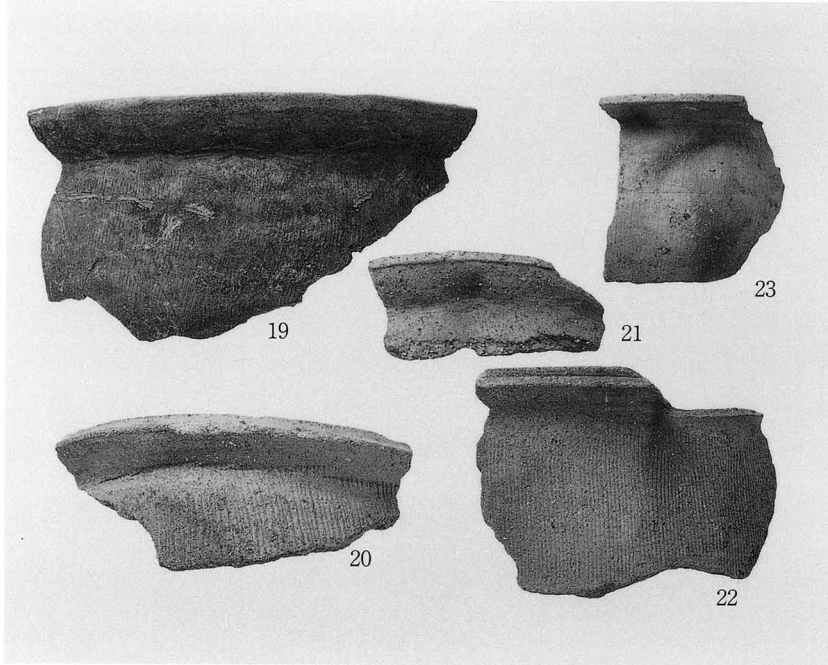
同上（裏）

図版七　城ヶ脇遺跡出土遺物(2)

須恵器坏



坏底部



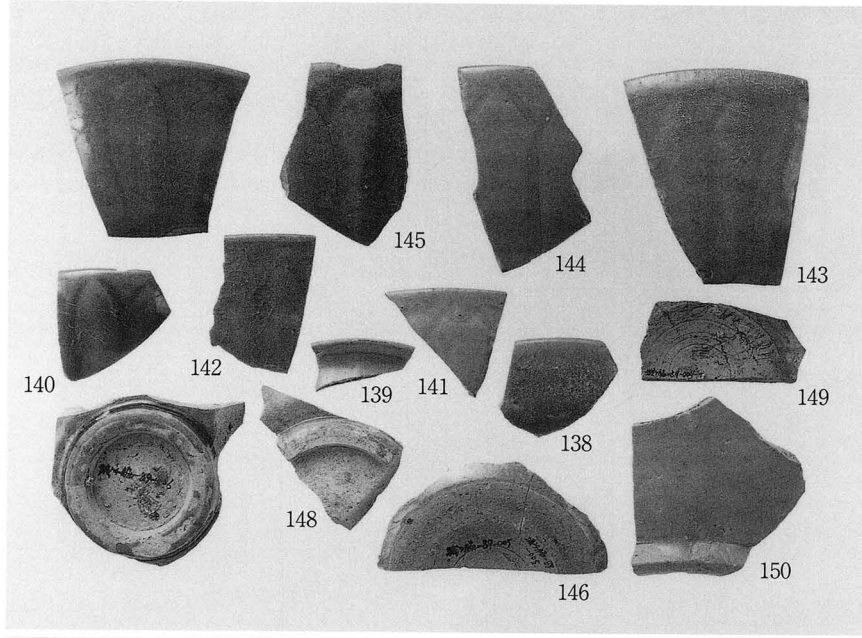
土師器甕

図版八　城ヶ脇遺跡出土遺物(3)

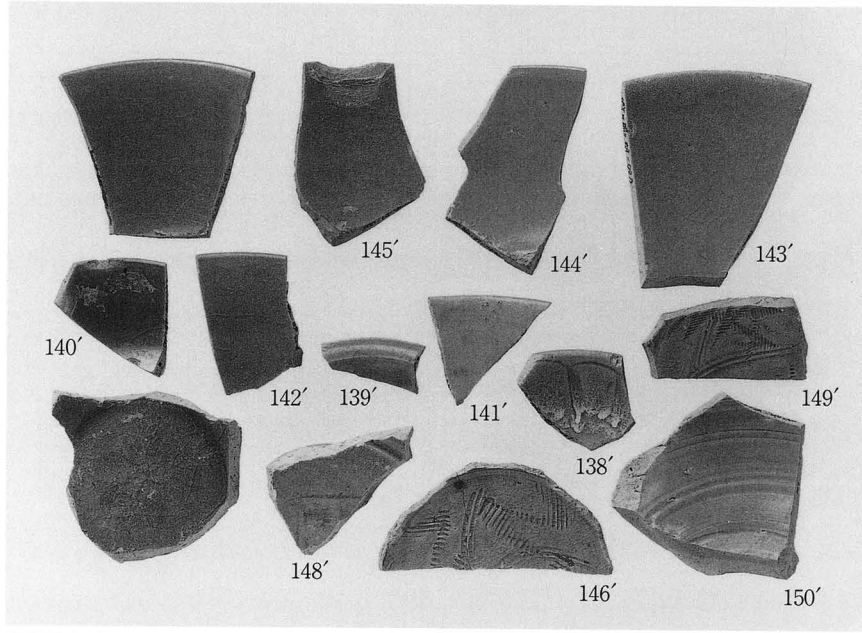
中世の瓦器碗

中世の土師器小皿

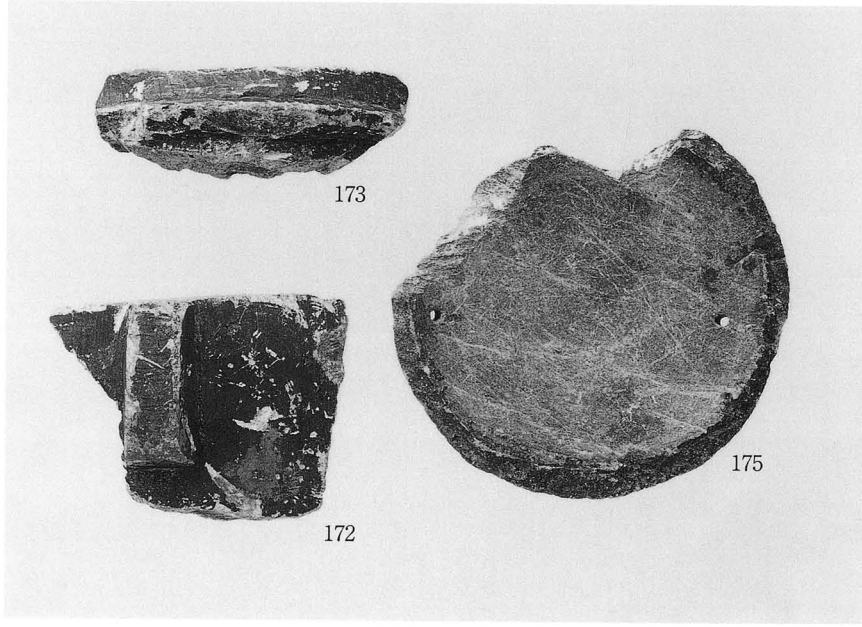
図版九　城ヶ脇遺跡出土遺物(4)



青磁片（表）

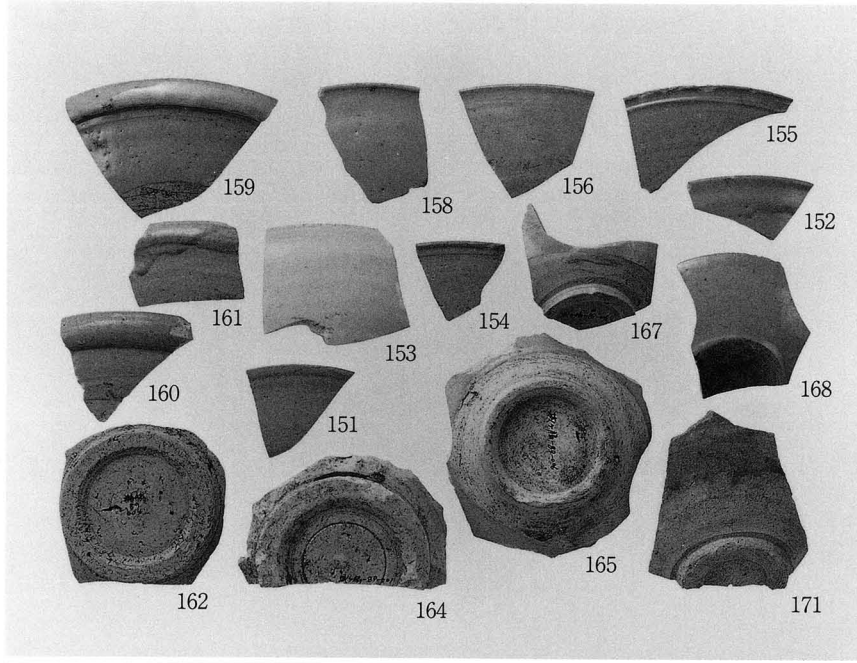


同上（裏）

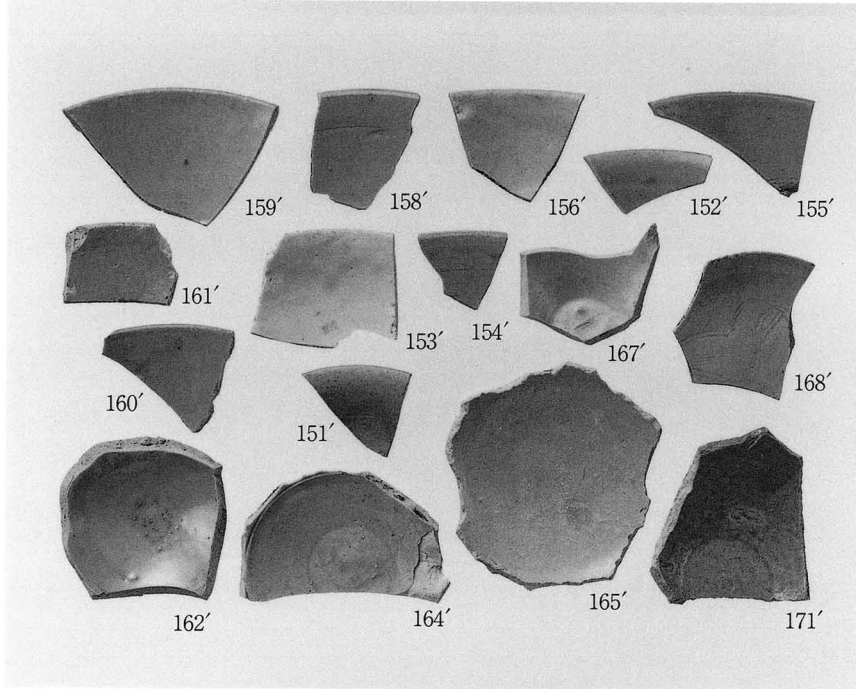


滑石製石鍋

図版十　城ヶ脇遺跡出土遺物(5)



白磁（表）



白磁（裏）

古墳時代の須恵器